



藤田幸宏さんが地域での活動に関わることになったのは、芸濃中学校のPTA活動に携わったとき。「地元の中学校ですから、自治会長をはじめ、多くの地域の皆さんと出会うことができました。今考えると、地域のことを考えるきっかけだったのではないかな」と語ります。その後、市町村合併を機に発足した「芸濃まちづくり研究会」に参加することとなり、「安心安全」をテーマとする部会に所属しました。

まずは防災についてみんなで学ぼうと考え、川口三重大学准教授を招いて講演会を開催しました。その後、平成19年度には津市民防災大学に1年間参加したことで、防災についてより深く考えるようになったといいます。

## 備えること、備え続けること

研究会は、平成21年には「げいのうまちづくり協議会」という組織に変わったものの、安心・安全のまちづくり部会として、主に防災関係について活動を続けています。

芸濃町棕本にある富家地区自治会の自主防災組織に、防災モデル地区として協力してもらい、防災の心構えとしてルール作りに取り組みました。転倒防止対策をしているか、備蓄しているかなど各家庭で防災に備えて必要なことを書き出し、その課題を解決するために取り組む内容をまとめ、1年に1度点検し、点数化しています。

「2回目の点検をしてみたところ、点数が上がって防災力の向上が見られました。点数にこだわるのではなく、ルールを定期的に確認することが、日常忘れがちな防災意識に気付くきっかけになればと思います。始めから完璧な備えはできないし、それでは息切れしてしまう。前回より1つでも課題が解決できていて、前進していることが大事なんです」と備えに絶対がないことや、続けていくことの大切さを語ります。

## 自分たちのまちは自分たちで守る

「備えは大事だと思っても、一人で実行するのはなかなか難しいものです。例えば、家具などを固定することも、地域で協力し合えばスムーズにできるかもしれない。こういうことがきっかけになって、地域の防災力が向上していくと考えます。先日の東日本大震災では孤立した地域がたくさんありましたが、被害が広範囲にわたっていれば、援助はすぐに届きません。そんな時に力を発揮するのが地域の力である自主防災だと思えます。災害は予測できないからこそ、地域の人たちには自主防災の大切さと防災のことを、もっと知ってほしい」と藤田さんは願っています。

# 防災力は継続力

藤田幸宏さん  
(芸濃町岡本)

「げいのうまちづくり協議会」が発行する広報紙、さまざまな活動や地域内の出来事が掲載されています

